



航空機・宇宙用バッテリーの取り組みに関して

弊社は1914年古河電気工業(株) (兵庫県尼崎市) にて鉛蓄電池の製造から始まり、1950年古河電気工業(株) (横浜市) の電池事業を継承して発足いたしました。以来、自動車用、非常用の2次電池(充放電できる電池)を主体とした製造メーカーとして歩んでまいりました。

航空機産業との関わりは1955年に航空自衛隊殿T-33練習機搭載用に開発した鉛蓄電池より始まりました。以降、運用機に応じた製品の開発に努めてまいりました。1962年にはアルカリ(NI-CD)蓄電池の製造を開始。鉛蓄電池で培った技術を生かし、航空機用に開発、製造し運用いただいております。搭載機器の多様化に応じ、制御機器を兼ね備えた電源装置の役割も担うなど、常にご要望に応じた設計・開発に邁進してまいりました。

宇宙産業との関わりは、アルカリ蓄電池事業の展開とともに進み、1966年東京大学宇宙航空研究所(現ISAS:宇宙科学研究所)殿との共同開発にて第1号科学衛星(しんせい)用に搭載。その後の科学衛星、技術試験衛星へと技術を継承してまいりました。一度飛立れば蓄電池は最後の命綱として重要性が増すなかで、その開発は、ものづくりと信頼づくりが重なった先によりやく一筋の道が見えてきます。その開発は量産品にはない果て無き追求の繰り返しであり、代替の効かない事業という反面、国家プロジェクト参画への熱意と、JAXA殿及び衛星メーカー殿からのご指

導を頂き技術者魂が根付いてまいりました。

こと、世界中の注目を集めた2010年の科学衛星はやぶさの帰還ですが、はやぶさには弊社にて開発した世界初の宇宙用リチウムイオン2次電池が搭載され、7年に及ぶミッションに携われたことは、もの・ひと・技術が融合できた瞬間となりました。その経験は、はやぶさ2に引き継がれ、昨年12月のスイングバイミッションを無事遂行し小惑星「Ryugu」への道に随行しております。

アルカリ蓄電池の開発・製造拠点は福島県いわき市にあります。いわき事業所では復興への取り組みとして「ふくしま産業復興企業立地補助金」と「国内立地推進事業費補助金」を活用し、新たな自動車用バッテリーの生産設備を導入し稼働を開始しております。

弊社は「私たちは挑戦者である」をテーマとし、永年にわたり培ってきた技術力を核とし、絶え間ない革新により、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献する事を経営理念としております。今後とも、航空機・宇宙事業に必要な高度な技術の習得と常に挑戦者の志で取り組んでまいります。

本年は国際航空宇宙展開催の年であり、弊社も出展を計画しております。弊社の近況をご報告できる良い機会と考えておりますので是非ともお立ち寄りいただきたくお願い申し上げます。

今後とも皆様方の更なるご指導・ご協力を賜りたく宜しくお願い申し上げます。